

ボランティアの皆さんに感謝。

阿蘇市災害ボランティアセンターを通じ

延べ14,210人が支援

災

害発生翌日、7月13日に被災

者支援を目的に社会福祉協議会が開設した阿蘇市災害ボランティアセンター。

8月20日に活動を終了するまでの39日間に、延べ1万4210人の方々にご支援をいただきました。

被災者からの支援依頼は754件あり、活動終了までに全ての依頼案件を完了。北は昨年震災で被害を受けた宮城県気仙沼市から、南は沖縄県まで、全国各地からボランティア

に駆けつけていただき、阿蘇市の復旧は大きく前進しました。

「感謝の意は
尽くせない。」

阿蘇市民の多くの方々にもボランティアとして支援いただきました。

阿蘇市内にある唯一の高校、阿蘇中央高校でも「地元がこのような状況で、何もしないわけにはいかない。」と、全校生徒によるボランティア参加を決定。生徒は泥まみれになりながら、家屋に流

入した泥の撤去作業や家屋の清掃など2日間にわたり行っていたいただきました。また、阿蘇市商工会青年部では、独自でボランティアを募り、県内の商工会から多くの方々がボランティアとして、作業にあたっていただきました。

支援を受けた市民からは「真夏の作業にもかかわらず懸念に働かれる姿に感謝の意は尽くせない」と誰もが強く口にされました。



episode1

内牧のホテルや旅館には、ニュース等で被害を聞きつけた常連のお客さんなどが駆け付け泥出しや片づけなどを手伝っていただきました。

熊本工業高校と開新高校の陸上部は、7月16日、いつも合宿で利用している「ほこすぎ荘」の泥出しや片づけに協力。人数が多く周囲の神社などにも分かれ作業が行われました。

「いつも僕たちによくしてくださる旅館の方や阿蘇市の方に恩返しができた」と生徒たち。その優しい気持ちに、旅館の皆さんも「これからも頑張ってください！」という気持ちになっておられます。



「がんばれ阿蘇市！」と全員で掛け声。



episode2

(社)熊本県建設業協会阿蘇支部（内田知行支部長）と阿蘇市建設業協会（島村文博会長）は8月10日、阿蘇市管内の市道や生活道路の清掃などの緊急ボランティア作業を合同で行いました。

参加したのは両組織の会員80社、約240名で、市内24箇所の地域で道路沿いに流出した土砂や流木、散乱したゴミなどを重機と手作業で撤去作業にあたりました。

内田支部長は「阿蘇市民の方がいち早く普通の生活を取り戻せるように、今回の作業が一助となれば」と話されました。



▲狩尾地区で道路沿いの土砂撤去を行う作業員

「この支援を、忘れてはいけない。」

取材を通して、ボランティアの皆さんに共通することは、誰もが笑顔で元気いっぱい作業をされていたことでした。そして、口々に「阿蘇のために役に立てれば」と話されていました。炎天下に、暑さをもとめせず懸命に作業に取り組む姿に、ただただ頭が下がる思いでした。

私たちは、皆さんから受けた支援を忘れてはいけません。そして、この先阿蘇市が復興を経て、元氣な阿蘇市を見ることが一番の恩返しではないでしょうか。今回、ボランティアに参加いただいた全ての方に、心から感謝の意を表します。本当にありがとうございます。

《お知らせ》

今後の災害ボランティアの依頼については、「阿蘇市ボランティアセンター」で対応してまいります。また、地域の方々からのご依頼に対し、ボランティアさんの参加が必要になった場合は、阿蘇市社会福祉協議会ホームページ等でお知らせします。

●問い合わせ

阿蘇市ボランティアセンター
(阿蘇保健福祉センター内)
☎080-3377-4776

episode3

総合型地域スポーツクラブ「火の山スポーツクラブ」も、多方面で支援を行いました。

7月27日は、避難所生活で溜まるストレスを解消してもらおうと、農村環境改善センターでストレッチ体操やゲームで心と体を和ませました。

また、ボランティアの方々に対し、一日作業をして疲れた体を癒してもらおうと、かき氷を振る舞い、ボランティアの方々も大変喜ばれていました。

